



2025年11月12日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ヴ イ ス
代 表 者 名 代表取締役社長 金 谷 智 浩
(コード番号：5071 東証スタンダード)
問 合 せ 先 常務取締役コ-ボレットDiv.長 矢 原 裕 一 郎
(TEL.06-6457-6788)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、当社の現状を分析・評価し、改善に向けた取組方針を決議いたしましたので、お知らせいたします。なお、詳細につきましては添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」をご覧ください。

記

1. 背景

当社は、株主・投資家の皆様からいただいた多様で建設的なご意見を、今後の成長に向けた貴重な指針と捉えております。企業価値の持続的な向上をさらに加速させるため、資本効率や株主還元のあり方を含めた財務戦略をより明確にし、ステークホルダーの皆様との対話を一層深めていくことが重要と考えております。

2. 現状認識と方針

現状、当社は想定する資本コスト（約8%）を大きく上回る資本収益性を維持しており、資本効率の観点からは一定の成果を上げております。その結果として、PBRは1倍を超える水準にありますが、PERは相対的に低位で推移しており、市場からの成長期待が十分に織り込まれていない可能性があると認識しております。

また、当社は安定した財務基盤を有しておりますが、現預金水準にも余裕があることから、資産の適正化と積極的な活用が求められる局面にあると考えております。今後は、資本コストを意識した投資判断を徹底するとともに、成長投資と株主還元のバランスを最適化し、企業価値のさらなる向上に努めてまいります。

3. 改善に向けた取り組み

・株主還元の強化

株主の皆様への安定的かつ持続的な利益還元を経営の重要課題と位置づけ、累進配当方針の導入を決定いたしました。また、2027年3月期の期末配当より、配当性向を40%に引き上げ、株主還元の水準を一層高めてまいります。なお、詳しくは本日発表の「配当方針の変更のお知らせ」をご覧ください。

・積極的な成長投資の推進

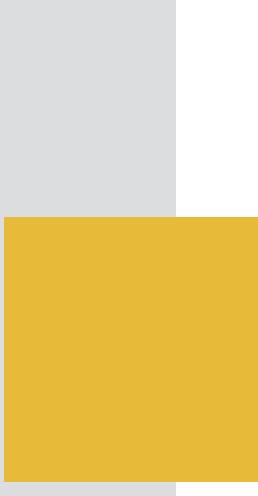
中長期的な成長を支えるため、人的資本への投資を強化し、従業員のスキル向上やエンゲージメントの向上

を図ってまいります。また、外部資源の活用による成長機会の獲得を目的として、戦略的なM&Aの検討・実行にも積極的に取り組んでまいります。これらの投資判断においては、資本コストを上回るリターンが見込まれるかを厳格に評価し、資本効率の向上と持続的な企業価値創出を両立させてまいります。

当社は今後も、資本コストを意識した経営の実践を通じて、財務・非財務の両面から企業価値の最大化を図つてまいります。株主・投資家の皆様との対話を大切にしながら、持続的な成長と社会的信頼の獲得に向けて、着実に取り組みを進めてまいります。

引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

株式会社ヴィス

東京証券取引所 スタンダード市場 証券コード 5071

2025.11.12

vis

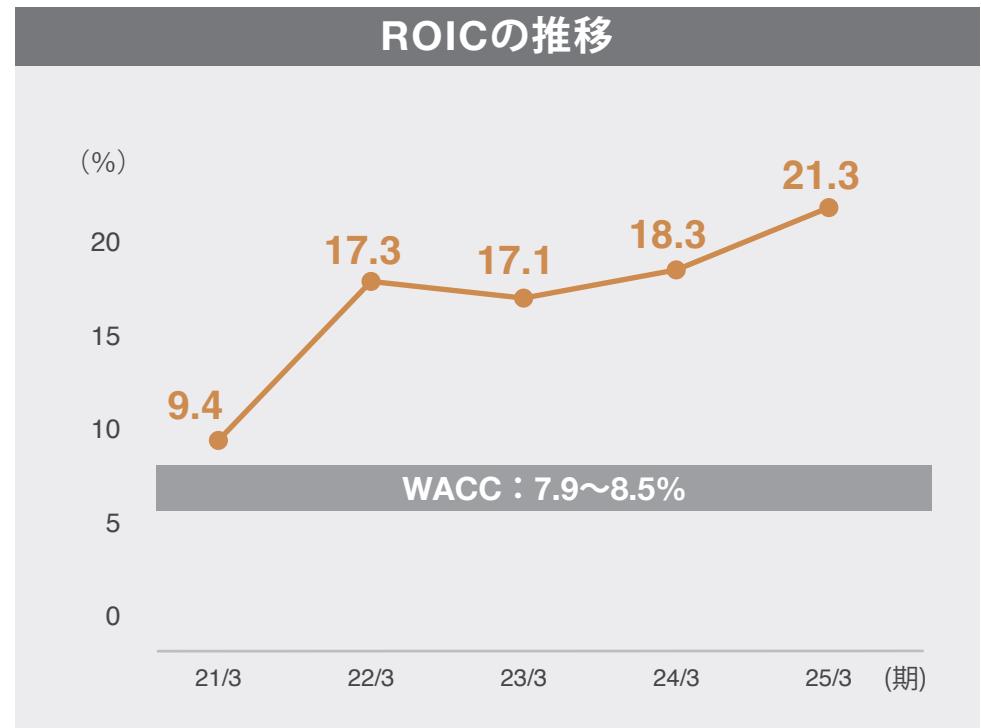
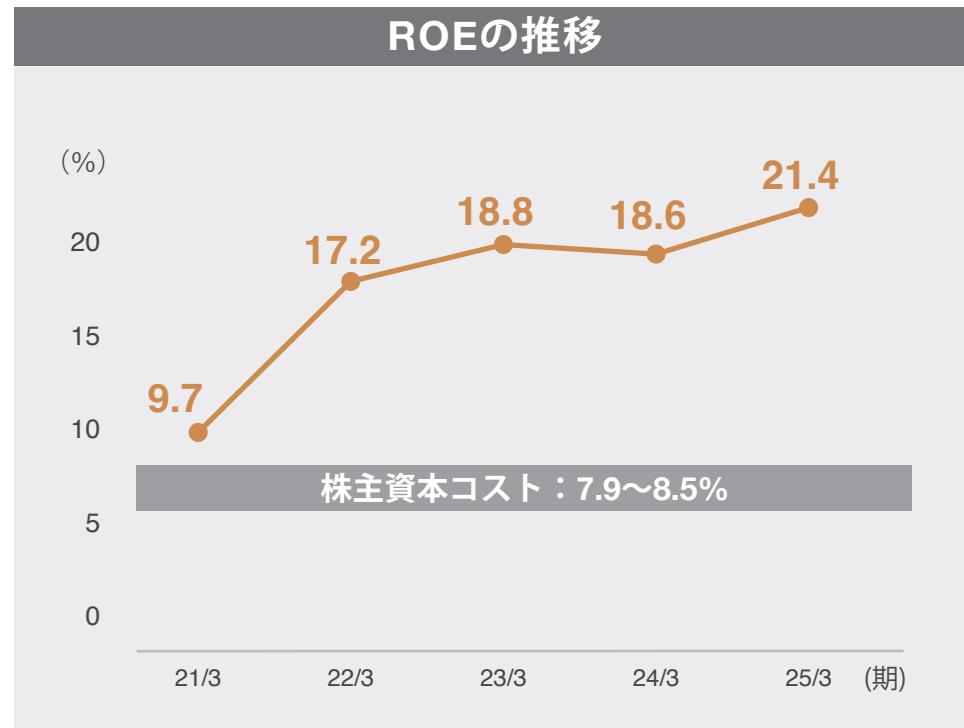
01

現状分析と課題の抽出



現状分析:資本コストと資本収益性

ROEは想定する株主資本コスト8%前後^(※)を超過し、エクイティスプレッドは、高い水準で成長。

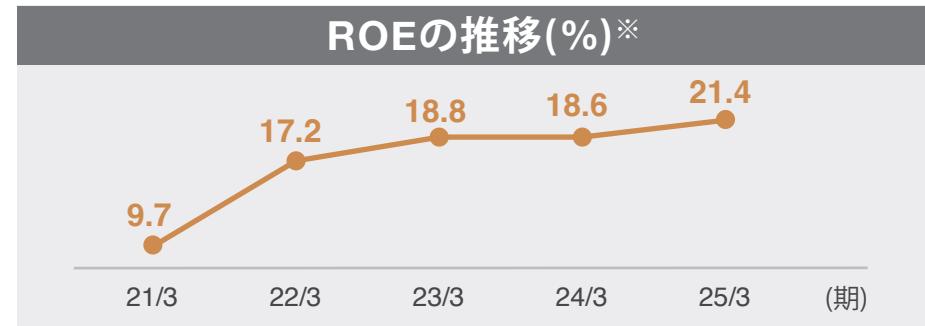
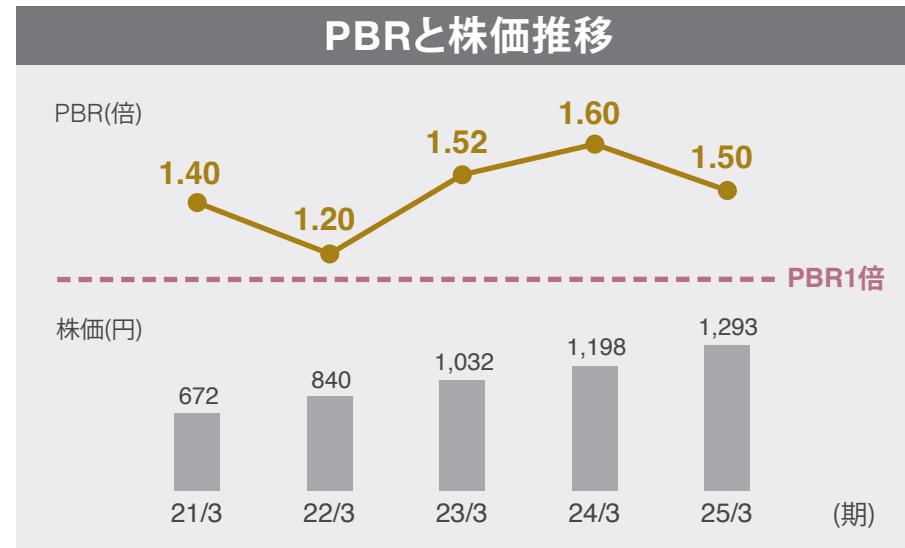


※株主資本コストは、CAPMによる算出手法と、PBRおよびROEを用いた算出手法を活用し、両者の結果を比較・衡量した上で設定しています。なお、資本コストは市場環境や株価の変動に応じて変化する可能性があります。

現状分析: 株価指標

高ROEを背景にPBRは1倍を超えており、
PERは割安傾向と認識。

$$\text{PBR} = \text{ROE} \times \text{PER}$$



*ROEの算出には、自己資本の期首・期末の平均値を用いております。

現状分析:バランスシートの状況

約57億円の現金及び預金を保有し、強固な財務基盤を有している一方、余剰があり保有資産に対する積極的な施策が求められる。

現預金 5,748	買掛金 1,130	有利子負債なし
売掛金 823	前受金 1,268	
建物 1,201	その他負債 1,113	
土地 1,155	払込資本 1,080	
投資有価証券 397	利益剰余金 5,860	自己資本比率66.4%
その他固定資産 883		

2025年9月末時

(単位:百万円)

■ 現状分析：株主・投資家からの意見

企業価値の向上に向けた施策や情報開示に対し、株主・投資家から多様な意見や期待が寄せられている。

株価対策・株主還元 の考え方等

- ・現預金が過剰に蓄積されており、資金の具体的な活用方針が不透明である
- ・保有資産の最適な配分戦略が示されていない
- ・PLベースの目標だけでなく、ROICなど資本効率指標の開示を求める
- ・成長投資・株主還元・内部留保のバランスに対する考え方を明確にしてほしい
- ・資本コストを意識した経営の姿勢を、定量的な指標で説明してほしい
- ・中長期的な企業価値向上に向けた財務戦略の全体像が見えづらい

IR活動・情報開示の 充実等

- ・ターゲット株主を明確にした上でのIR発信
- ・類似他社との比較を通じて、自社の強みや差別化ポイントを積極的にアピール
- ・将来の成長を期待させる戦略やビジョンを、定量的かつ分かりやすく市場に伝えてほしい

02

方針・目標



■ 基本方針

成長性を重視しながら、資本効率と財務健全性の両立を図り、持続的な企業価値の向上を目指す。

増収増益、営業利益率10%維持を基本方針とする※

+

企業価値向上を支える資本戦略：バランスシート最適化とキャッシュアロケーション

成長投資の推進

さらなる成長に向けた戦略的投資の実行

株主還元の強化

配当性向：30% → 40%に引上げ、累進配当の方針

市場評価の最適化

IR活動の強化、PER水準向上

※中長期的な企業価値向上に資する成長投資を行う結果として、短期的に当該基準を充足できない可能性もございます。

成長性の持続

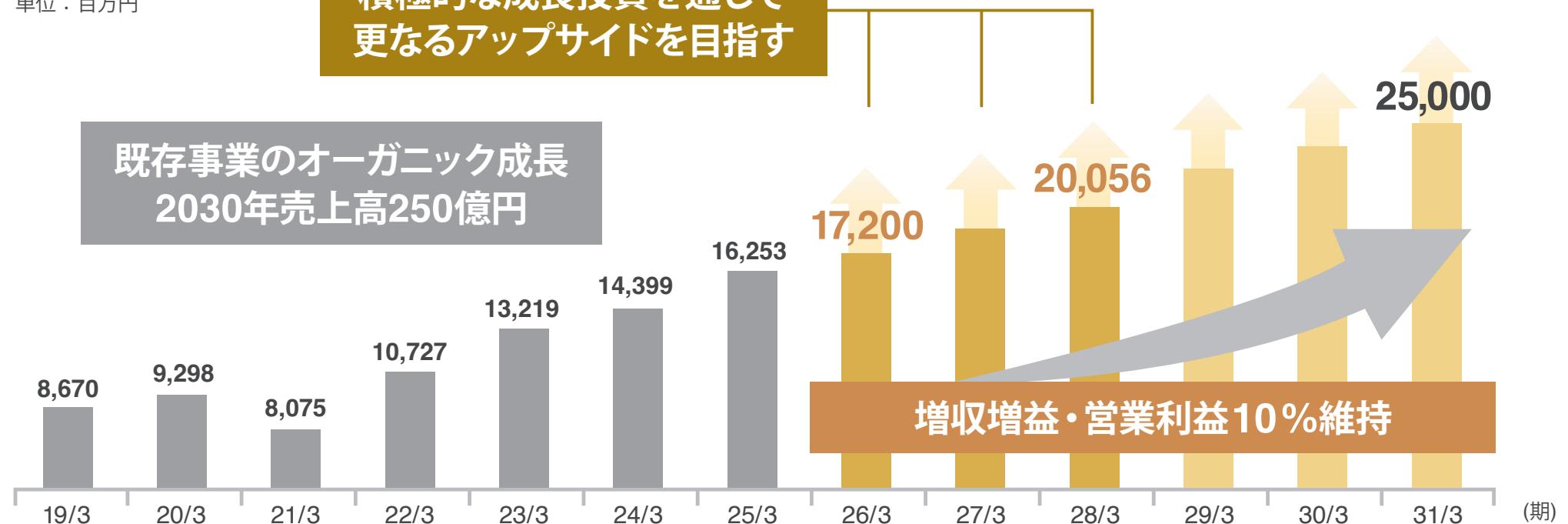
增收増益と営業利益率10%を基本方針とし、魅力的な成長機会には短期的な利益水準に捉われず積極投資し、計画超の成長を目指す。

売上高の成長イメージ

単位：百万円

積極的な成長投資を通じて
更なるアップサイドを目指す

既存事業のオーガニック成長
2030年売上高250億円

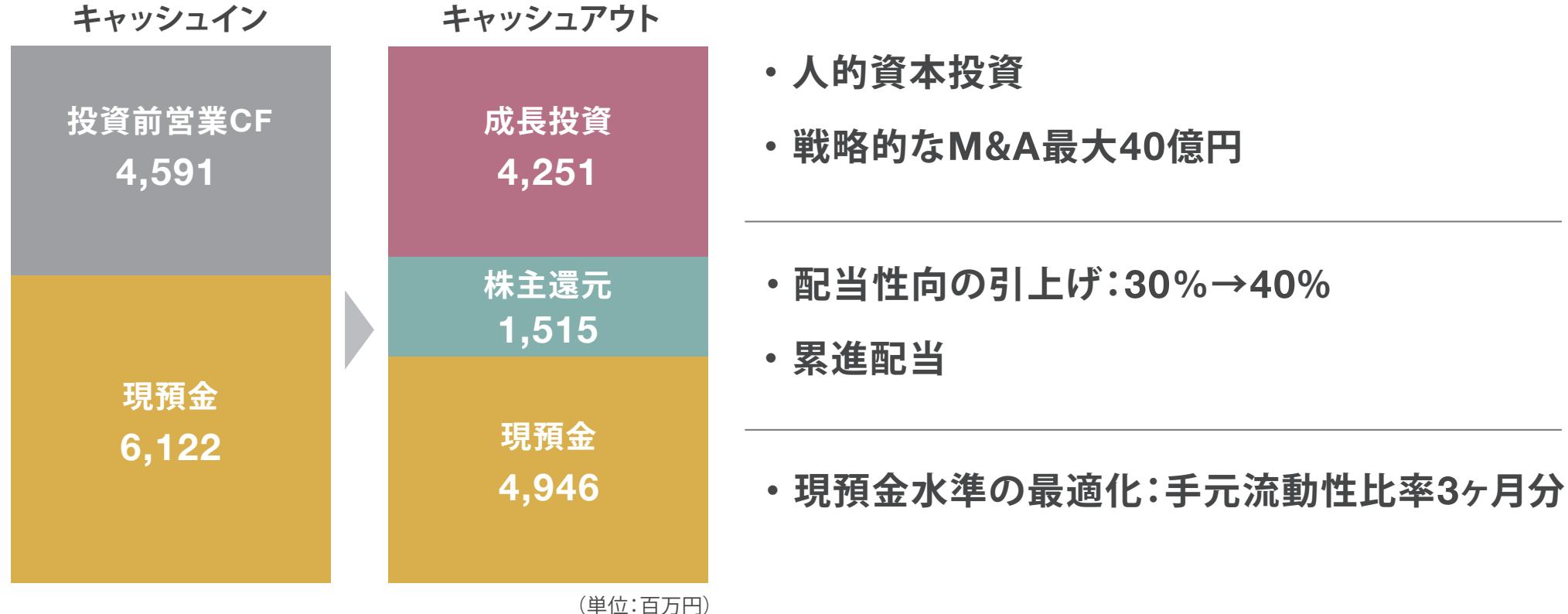


※当社は2023年3月期より連結決算に移行しております。上記では、業績の推移をご覧いただくため、2022年3月期までの実績は単体の数値を用いております。

※CAGRは2024年3月期を初値として算出しています。

| バランスシートマネジメント

資本効率の向上を図るため、現預金水準を最適化し、成長投資及び株主還元に資金を振り向ける方針。



※中期経営計画VISION2027(2026年3月期～2028年3月期)の3年間

| 成長投資の推進

現預金水準の適正化と創出される営業CFにより約42億円を成長投資に。

成長投資の見通し

成長投資
4,251

株主還元
1,515

手元預金
4,946

(単位:百万円)

M & A

主な成長投資テーマ

- ・中計(VISION2027)期間で最大40億円の投資
- ・買収規模:10~20億円(1件あたり)
- ・EV/EBITDA倍率:8倍まで
- ・原則自己資金にて実施

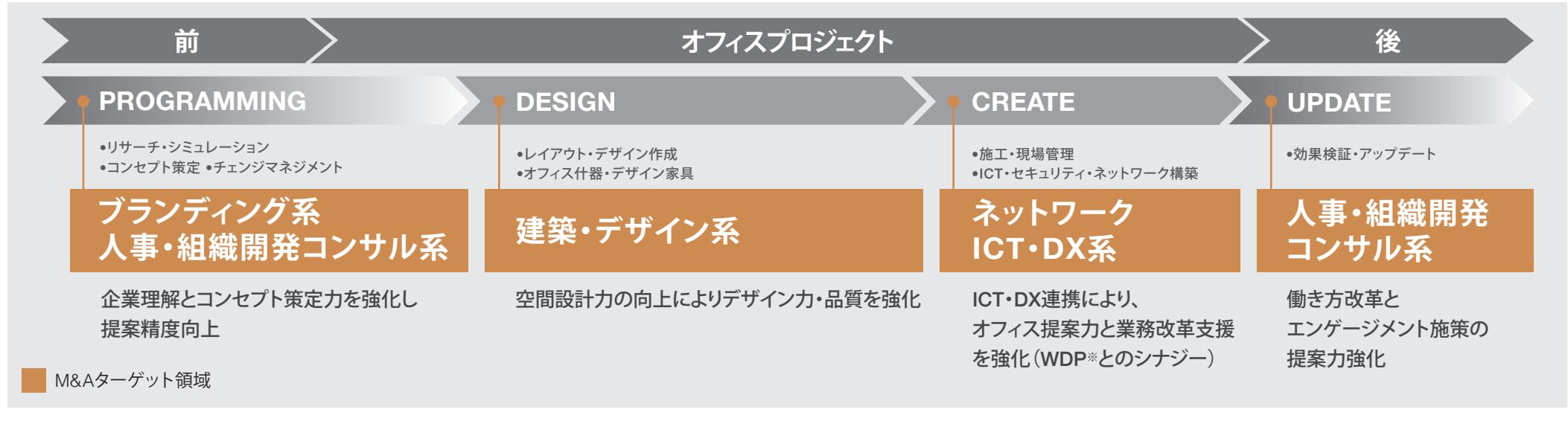
人的資本投資

- ・積極採用
- ・教育・育成強化
- ・エンゲージメント向上、リテンション施策

その他、「The Place」の運営拠点として都内の優良物件を取得する可能性を模索中。現時点で取得の可能性は限定的だが、資本効率性、事業シナジー、財務レバレッジへの影響等を踏まえ、投資対効果を精緻に検証し、合理的と認められる場合のみ、取得に向けた具体的な活動に着手する方針。

M&Aの基本方針

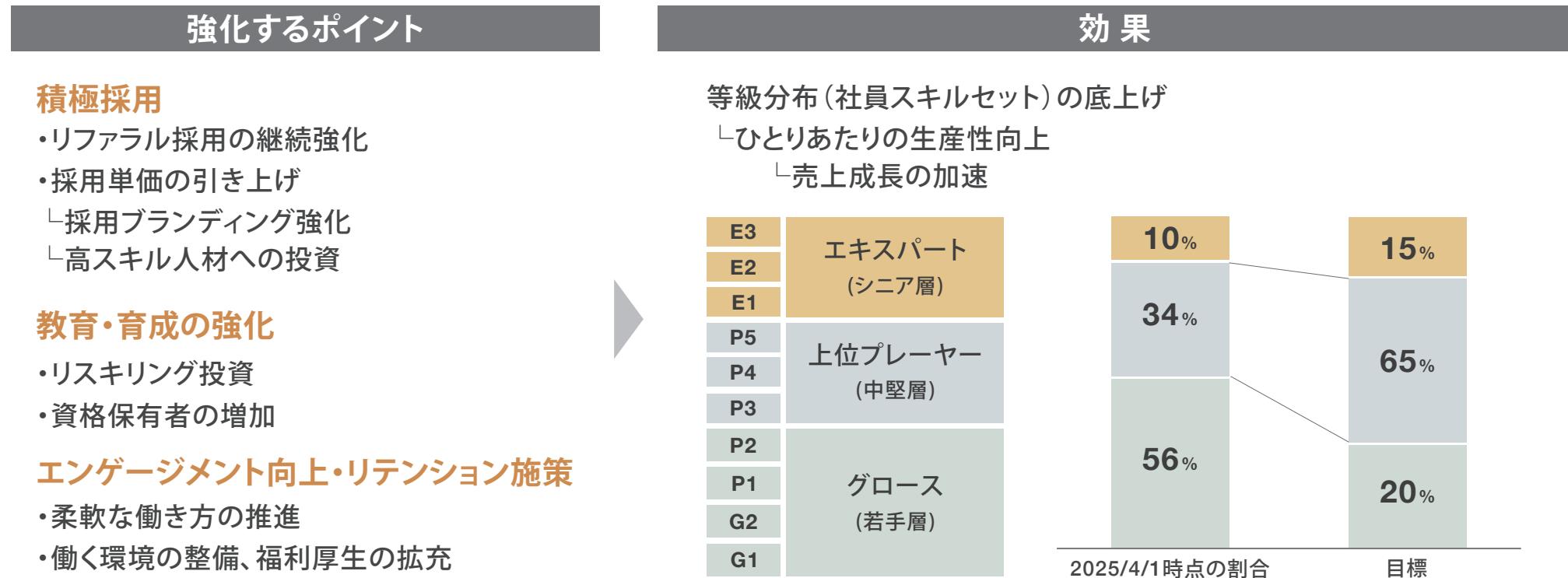
『ワークデザイン』拡大のため、シナジーを生む事業をターゲットへ。
新たな市場機会創出と企業規模の拡大を目指す。



*WDP: ワークデザインプラットフォーム。当社グループが開発した、ワークプレイスの現状を可視化するDXツール。

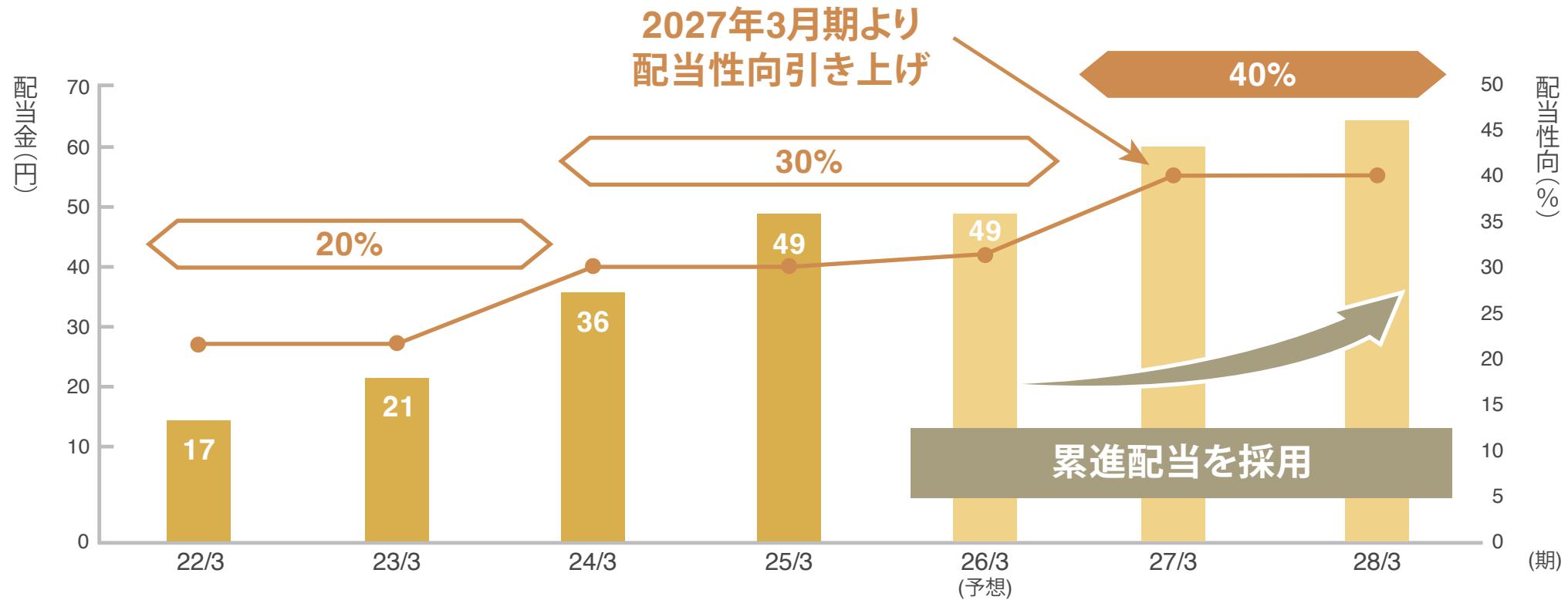
Ⅰ 人的資本投資

人的資本への重点投資により、組織力強化と売上成長への好循環を生み出す。



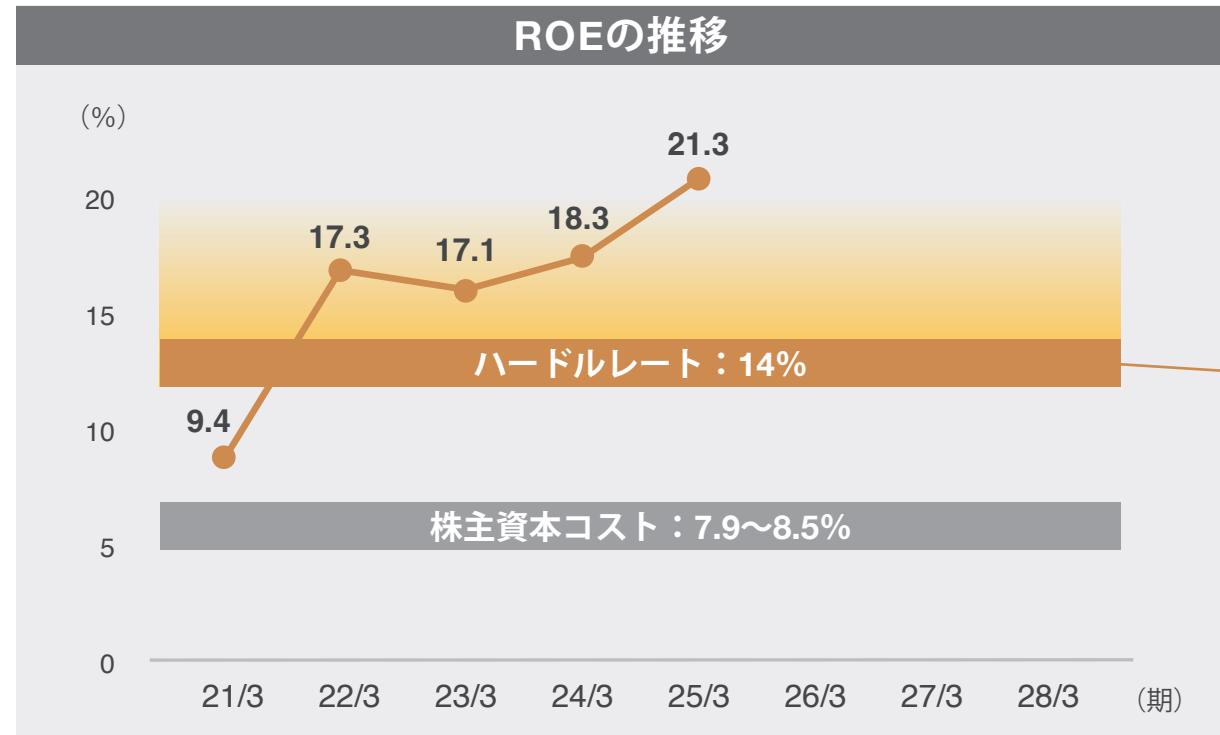
株主還元方針

株主還元の強化に伴い、配当性向を40%に引き上げ。
一時的な減益でも減配しない累進配当を採用。



Ⅰ 資本収益性の目標

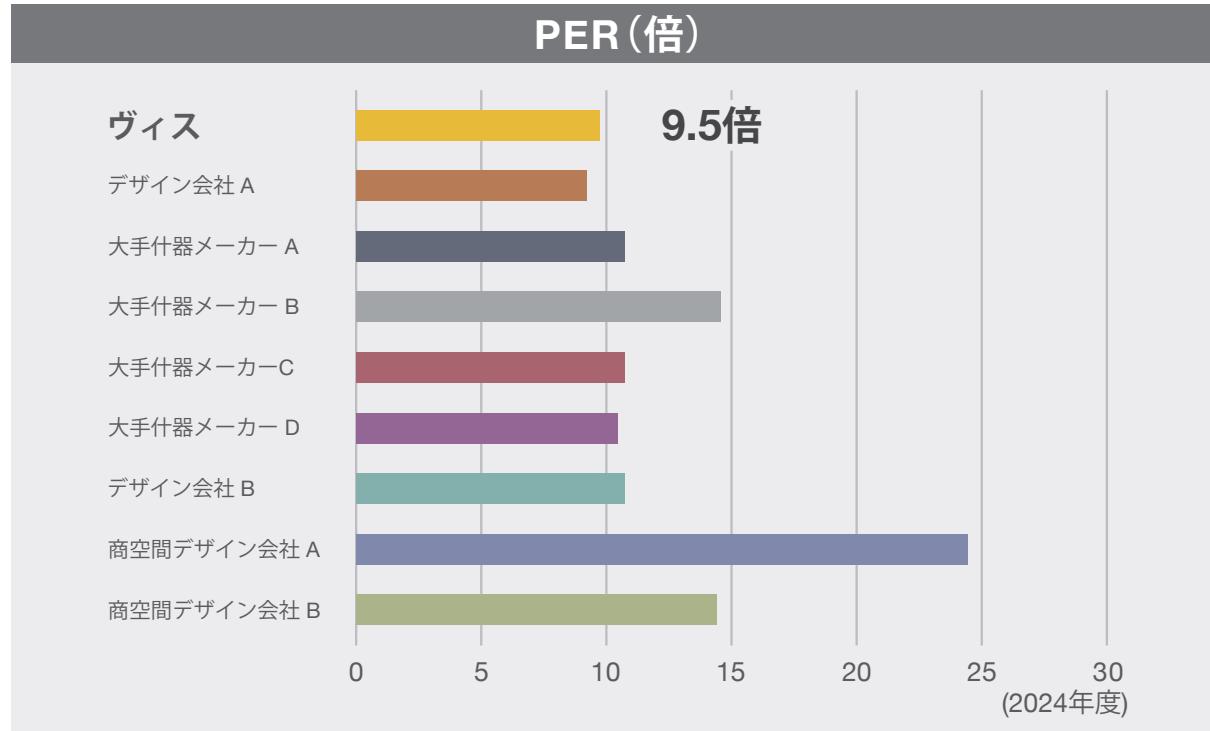
成長投資と株主還元のバランスを追求し、資本コストを上回るROE水準を安定的に維持する。



将来を見据えた積極的な成長投資を実施した結果、資本効率指標が一時的に低下する可能性があるが、その場合でも資本コストを上回る14%の水準を維持する方針。

市場評価の適正化

PERは同業他社と比較し相対的に低く、上昇余地があると認識。
成長期待の醸成、IR活動の強化を通じて、PERの上昇を目指す。



成長期待の醸成

- ・戦略的投資や成長ストーリーの発信
- ・PR活動の強化

IR活動の強化

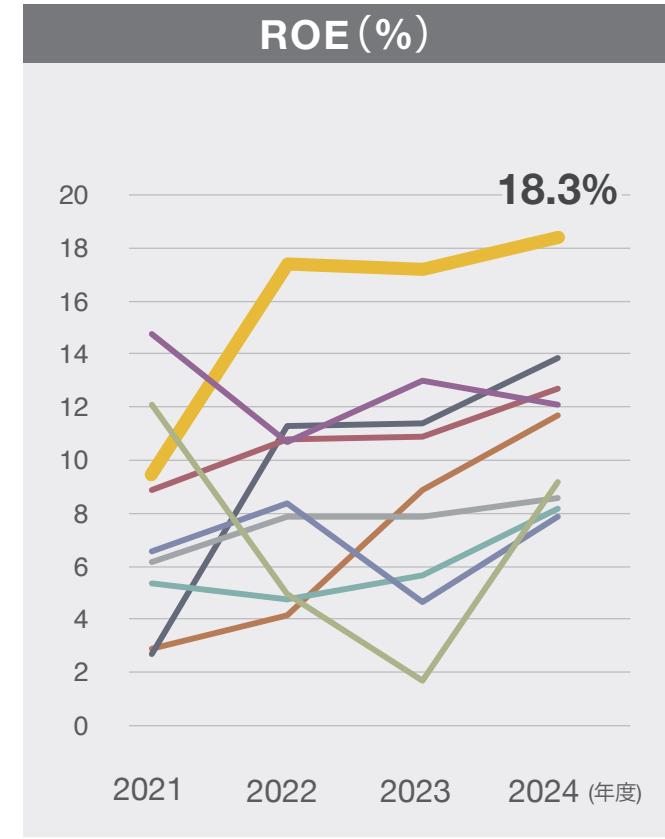
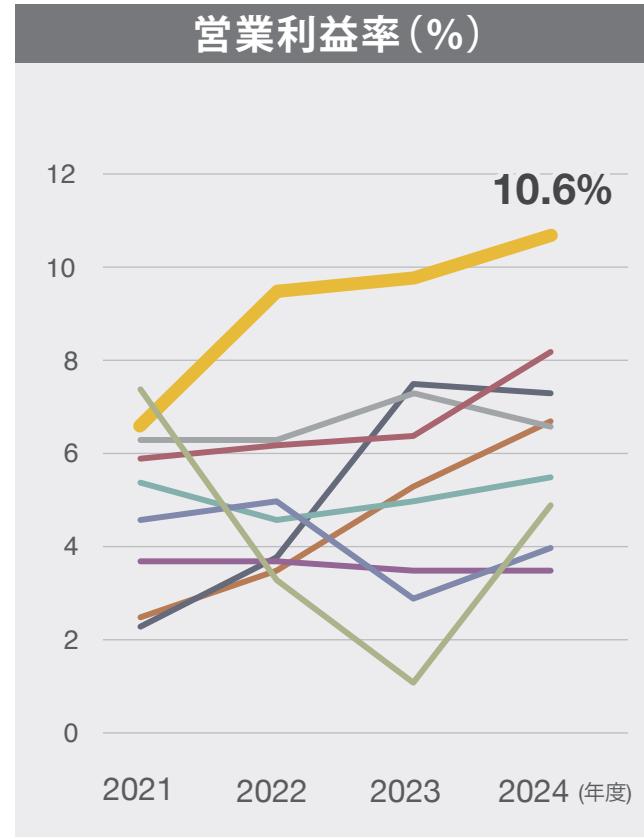
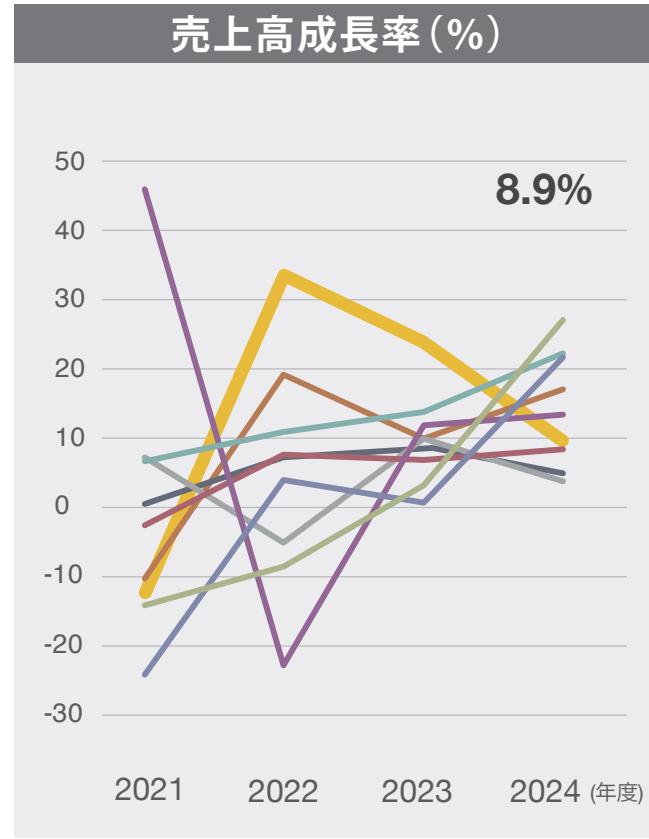
- ・開示情報の拡充
- ・投資家との対話促進
- ・認知向上による出来高の増加

03

參考資料



参考資料(他社比較)



Vis
大手什器メーカー D

デザイン会社 A
デザイン会社 B

大手什器メーカー A
商空間デザイン会社 A

大手什器メーカー B
大手什器メーカー C
商空間デザイン会社 B

注意事項

- 本資料は、情報提供のみを目的として作成されるものであり、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買い付けの申込みの勧誘（以下、「勧誘行為」という。）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものではありません。
- 本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは資料作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予測とは異なる結果となる可能性があります。
また、当社は、本資料の日付以降の事象及び状況の変動があった場合にも、本資料の記述を更新又は改訂する予定はありません。
- 本資料には、独立した公認会計士又は監査法人による監査を受けていない財務諸表又は計算書類に基づく財務情報が含まれています。
- 本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

お問合せ先

株式会社ヴィス

IR 担当

MAIL : ir@vis-produce.com

URL : <https://vis-produce.com/>